

パリ協定と人類の未来

2019年7月5日 シニア自然大学

地球環境市民会議 (CASA) 専務理事 早川光俊 (弁護士)

- 1 加速する地球温暖化
 - ・大気中のCO₂濃度は400ppmを超え、世界の平均気温は過去最高を更新
 - ・頻発する異常気象
- 2 歴史的なパリ協定
 - ・平均気温の上昇を2℃十分に下回るレベルに維持することを協定の目的とし、1.5℃への抑制を努力目標。
 - ・21世紀後半に、人為的な排出量と吸収量をバランスさせる(温室効果ガスの排出実質ゼロ=脱炭素社会の構築)。
 - ・すべての国の参加。
- 3 1.5℃特別報告書
 - ・1.5℃と2℃では大きな影響が違う
 - ・2030年までの削減対策が決定的に重要
- 4 加速する脱炭素社会に向けた動き
 - ・脱石炭火力
 - ・ダイベストメント(投資撤退)
 - ・ガソリン・ディーゼル車の販売禁止
 - ・爆発的に進む再生可能エネルギーの普及
- 5 日本の課題
 - ・パリ協定に逆行するエネルギー政策
 - *石炭火力・原子力をベースロード電源
 - ・低い削減目標
 - ・子や孫に大きなツケ
- 6 温室効果ガスの削減は可能か?
 - ・CASAの検討
- 7 日本は地球温暖化の加害国
 - ・日本は世界第5位の排出国。累積排出量も世界第6位
 - ・地球温暖化もよって深刻な影響・被害を受けるのは途上国
- 8 Friday for Future (未来のための金曜日)
 - ・世界に広がる若者の活動